

## 1 部の使命

私たち産業環境部は、産業振興や環境保全に係る市民一人一人が希求する暮らしやすい環境づくりのため、持続可能な地方創生につながる産業・環境活動を部員の能力最大化と市民との協働により継続的な挑戦で実現します。

## 2 部の経営方針

### 【市民】

- ・丁寧なニーズ把握と対応による信頼関係の構築に努める。
- ・各種媒体を活用し、タイムリーで分かりやすい情報発信を心掛ける。

### 【政策】

- ・国・県の施策や社会情勢、市民ニーズ、データ、費用対効果を踏まえた市独自施策の必要性や、既存施策の見直し・スクラップを意識する。
- ・一般職員が日々の業務で感じた問題意識を吸い上げ、ボトムアップ型の施策立案につなげるための打合せを実施する。

### 【協働】

- ・関係機関や団体等との情報共有を密にするとともに、連携を意識する。

### 【人材】

- ・一般職員に対して研修や勉強会への積極的な参加を促し、自己研鑽に取り組む職場環境づくりに努める。また、能力開発に時間を割くことができない職員にも配慮し、部内の重要施策等に関する情報をプッシュ型で提供する。

### 【管理】

- ・少なくとも2か月に一度、部内管理職で重要施策等の進捗について打合せを行い、計画通りに進まなかった事案等について、その要因や改善の余地について十分議論する。

### 【組織】

- ・全ての職員が組織の一員であることを自覚し、重要度に応じた「報連相」が自ずと徹底されるような、風通しの良い職場環境作りに努める。

## 3 重要経営課題

【農業】人と環境にやさしい農業の推進

【農業】維持すべき農地とその担い手の確保（地域計画の実現）

【林業】林業事業体の育成等を通じた適切な森林整備の推進

【環境】有害鳥獣被害の軽減

【環境】2050ゼロカーボンシティの実現

【商工】新たな産業の育成と既存事業者の発展

【観光】関係者との協働等による観光施設の利活用と計画的な維持管理

## 4 部の重要政策の取組内容

### 【農業】

- ・維持すべき農地とその担い手の確保（地域計画の実現）
- ・認定農業者等の担い手と離農・規模縮小意向の農家のマッチング
- ・現状維持以上の営農意向を有する農業者への機械・設備の導入支援
- ・営農継続等に必要な農地・農業用施設の保全管理・整備
- ・多面的機能支払の他直接支払い交付金制度等による組織的な農地維持・活用の推進

### 【林業】

- ・森林組合等の林業事業体による広域で効率的な間伐の推進並びに自伐型林業による持続的な小規模事業者による森林の整備と自伐型林業グループや地域おこし協力隊など新たな担い手の確保及び育成。

#### 【環境】

- ・市の豊かな自然環境に対する価値の認識と保全意識の醸成
- ・猟友会員の確保と育成

#### 【商工】

- ・養父市の豊かな「食」を広く紹介するイベントを前年度の内容を踏まえ、各種団体や市内事業者等とともに企画・開催し、市内事業者の売上増、顧客・販路の拡大、ふるさと納税の増加、交流人口の増加等につなげる。
- ・地域資源の魅力と価値を高めると共に新たな産品を発掘するなど、地域の事業者と連携したふるさと納税の推進。

### 5 部の経営目標

#### 【政策①～⑥の数値目標】

- ④誇りややりがいをもって働いている人の割合：68.5%  
次世代につなぐ意識をもって働いている人の割合：45.9%

#### 【経営目標】

- ・新規就農者の増加 2人
- ・認定農業者の数 53人
- ・素材生産量 3.0万m<sup>3</sup>/年
- ・農地の新規集積面積 年間30ha
- ・地域計画策定地区数 完了地区100地区
- ・猟友会員数 90人
- ・農林業の被害額 23,300千円/年以内
- ・企業等奨励制度の交付件数 38件
- ・観光入込客数 1,054千人/年
- ・ふるさと納税寄付件数（一般寄付） 12,150件

### 6 前年度の経営目標及び実績

#### 【令和7年度実績】

- △【農業】有機JAS認証農場面積 : 22.5ha//20.5ha  
△【農業】新規就農者・就農研修生の増加 : 4人/年//3人/年  
△【農業】担い手への農地利用集積面積 : 20ha/年//7.3ha  
△【林業】人工林の間伐実施面積 : 720ha/年//239.3ha  
―【林業】森林管理意向調査 : 1地区//0地区  
△【環境】猟友会養父支部の会員数 : 90人//86人  
―【環境】鳥獣被害額（の減） : 20,454千円/年//集計中（5月下旬確定見込）  
△【観光】観光入込客数（の増） : 2,000千人/年//1,207千人（見込み）+YABUフードEXP09千人  
○【商工】スタートアップ等と市内事業者の連携件数：5件/年//6件（実証事業4件）

#### 【評価等】

- ・高い目標を設定した事もあるが達成は9項目中1項目、おおむね達成できたのが有機JAS認証農場面積と猟友会の会員数の2項目であった。

#### 【原因】

- ・新規就農者については、新たな担い手を求め補助事業等を活用し普及確保に努めたが結

果3名の就農となった。

- ・担い手への農地利用集積は、目標値の36.5%となった、担い手を認定農業者に限定した事が目標と乖離した大きな要因。
- ・間伐面積については、従来切り捨て間伐が比較的多く実施されてきたが、材の有効利用の観点等から搬出間伐の実施が増加したことから、面積的には目標に至らなかった。
- ・猟友会会員の確保については、高齢等により会員が減少しているなか、新規狩猟者確保事業等により令和7年度は5名の新規会員があり、目標には届かなかったものの一定の事業成果はあった。
- ・鳥獣被害額については、シカの駆除数自体は前年度より若干増加しているが、被害額については数値を集計中で5月下旬に判明予定。
- ・観光入込客数については、児童数減少に伴う自然学校・合宿への影響や関西万博への観光客の集中、また冬季においては初期に降雪が少なくスタートが遅れた事や週末に大雪が降り来訪に影響があった事などが原因と推察している。

**【対応】**

- ・有機農業については市の強みであり、農業者も増加傾向にある、組織の活性化や講習会等による知識や技術の向上など総合的な推進に努める。
- ・担い手への農地利用の集積は認定業者に限定する事なく地域計画に位置付けられた農業者も含め集積を進める。
- ・林業においては、林業事業者、自伐型林業などそれぞれの特性を活かした森林保全・整備を進めるとともに、木材利用推進の観点から搬出間伐等を進める。
- ・有害鳥獣対策においては、若手ハンター等猟友会会員の増に向け助成制度も活用しながら普及啓発にも努める。